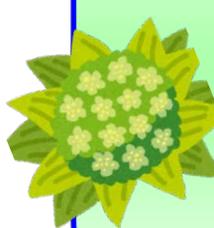


Tuuli

トゥーリ

2015年3月15日発行



「春に三日の晴れ間無し」とはよく言ったものでここ数日の天気の変化はめまぐるしいものです。晴れ、曇り、雨だけではなく風が強く吹く日もあります。雨にも春を感じさせる暖かな雨と、真冬に逆戻りのような冷たい雨がります。冬の名残の寒さと春の太陽の暖かさがせめぎあいをしているようです。「今日はダウンジャケットかな?」「今日はあったかいので薄めの上着で。」などこまめに衣類で調整をしながら、体調の管理をなさってください。



ボランティア交流会のご報告



恒例になりましたボランティア交流会ですが今年も2月26日10時から13時30分まで66名の参加で、錦特養センター2階ホールで行われました。早めの備え、早めの住み替えという共通のテーマと、1年に1度、ボランティアとはという原点に立ち戻る時間を、ボランティアさん、利用者のご家族、職員皆で共有できました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

① 橋本 正明 至誠ホーム ホーム長 挨拶

② 大村 洋永 至誠ホーム 副ホーム長 講演

日頃からボランティア活動で至誠ホームをご支援頂きありがとうございます。

至誠ホーム利用者の特徴は、利用者が他の利用者の日々の生活を支えるためにボランティア活動を行っていたり、元職員や元ボランティアが今は利用者として入所しておられたりします。また親子三代にわたってボランティア活動をしてくださっている方や、親子三代で利用者であったりする人もいらっしゃいます。また利用者のご家族や地域の方々にもご利用いただいています。

至誠ホームのキャッチフレーズは「みんなのふるさと至誠ホーム」です。4月に介護保険が大きく変わりますが、ボランティア活動という助け合い活動が一層重要になってきます。2年後のアウリンコは地域のケアを支援し、地域に役立つ施設というコンセプトで計画をしています。ご期待ください。

ボランティアの皆さん、いつも明るい笑顔、やさしい言葉かけ、素敵なたち居振る舞い、利用者へのお手伝いに感謝申し上げます。

あるスイスの牧師さんが始めた活動にコミュニティチェスト(地域の箱)というものがあります。箱に匿名でお金を入れ、困っている人はそこから匿名でお金を借りていくというシステムです。この活動には今までにない考え(先駆性)、無償の行為(無償性)、自分が率先して(主体性)、必要な人に(社会性)というボランティアの4つの原点があります。

星野富弘さんの『ねこじゃらし』という作品から歳を重ねていくことは山の頂(成熟)にむかって登っていくのと同じで自分の前に新しい景色が広がっていく喜びが読み取れます。星野さんが自分の身に降りかかった災難を乗り越えられたのはしなやかな優しい心があったから。無償の行為は必ず自分に戻ってきます。ボランティアはそんなものです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

③ 木田マサ子氏 講演 【介護保険を上手に使う 高齢期の新しい生き方のお手伝い】

介護してもらわなければならない状況は突然やってくるというのが現実です。その介護者は配偶者すなわち老老介護です。ご夫婦お二人ともに病気になるとそのお子さんが、あるいはお子さんの配偶者が介護者となります。今は介護保険を利用することが浸透し、介護保険のおかげで家族に迷惑をかけずに生きていられるという声をよく聞きます。介護が必要となったとき早めに準備しておくことで納得した老後を送ることができます。いろいろな施設やサービスがあるのでそれを元気なうちに研究をして自分で何をしたいかという意思を持っていることが大事です。早めの住み替えもおすすめです。

特養に入るのが一番お金がかからないのですが、特養は作るのにも場所の確保にもお金がかかる。そこで家族がいなくても在宅で暮らしていけるようにその中心になるのが地域包括支援センターです。

私たちの介護保険サポーターは「皆で支え合いながら安心して自宅で楽しい生活を送りましょう」というのが理念。私たちにも元気なうちにきっとお役にたつことがあります。地域でお役にたつ温かい気持ちをご家族などに伝えるというとても大切な役割があります。地域でまだボランティアをなさらない方を巻き込んでずっとお元気で活動ください。どうもありがとうございました。



KUKKA ♪ はな ♪ コンサート 送迎ボランティア募集



日本シベリウス協会理事の駒ヶ嶺ゆかりさんとシベリウス・アカデミーのソリストコースを終了なさって現在東京とフィンランドで演奏活動を行っておられる水月恵美子さんのお二人が「春」と「花」をキーワードにフィンランドと日本の歌のコンサートを行ってくださいます。送迎のお手伝いをどうぞよろしくお願いいたします。またどうぞ皆様も一緒に素晴らしい歌声とピアノをお楽しみください。

- ◆ 日 時：4月13日（月）10時30分～11時15分
- ◆ 場 所：錦特養センター2階ホール



財団法人 立川市地域文化振興財団 コミュニティ奨励賞 受賞のお知らせ

ボランティア交流会の折に橋本ホーム長からもご紹介がございましたが至誠ホームでは毎年、立川市地域文化振興財団主催のコミュニティ奨励賞に、至誠ホームで活動いただいているボランティアさんを推薦させていただいています。「文化・芸術の分野において、地域で他の模範となる善意の行為や継続的なボランティア活動を行っている個人または団体」ということで、今年は「朗読サークルこえ」の稲葉彰子さんが受賞されました。

至誠ホームでは「人間は常に成長しており変われる可能性がある」と考えています。そのため「生涯学習」に力を注いでいます。「朗読サークルこえ」のメンバーとして稲葉さんは平成12年から特養5階で朗読活動をしてくださっています。本を読むだけでなく、歌や手遊び、短歌や俳句などお年寄りの集中力に合わせていろいろな内容を盛り込んでくださっています。

ご苦労もあります。お年寄りの体調などにより計画通りに進まないこともありますが常に笑顔を決やさず臨機応変に対応してくださっています。「ボランティア活動を続けることで私自身に柔軟に物事を対処する力が付き、人に対して優しい気持ちが育まれていると思います。」とおっしゃっています。

ボランティアの皆様、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



新刊書のご案内



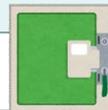
ひょっとすると皆様のお目に留まっているかもしれません。先日のボランティア交流会でホーム長がご紹介させていただきました「写真とイラストですぐわかる！安全・やさしい介護術」という本をご紹介します。橋本正明至誠ホームホーム長が監修、至誠ホーム職員3名がモデル・専門的なアドバイスで製作の協力をし、西東社から出版されました。

介護する方・される方「お互いが幸せな介護」をするため、受けるためにちょっとしたコツをつかむことで、もっと気持ちよく楽な介護ができます。

写真やイラストがいっぱいで、とても分かりやすく書かれています。玄関の横のラックに見本がありますので、どうぞ皆様、一度お手にとってご覧ください。



ボランティア室移動のお知らせ



現在ボランティア室はケアプラザ1階にあります。コイン式のロッカーが設置してあり、貴重品をお入れいただいたり、休憩していただいたりする場所になっています。ところが前月号でもお知らせいたしました通り、2017年に複合型介護施設「至誠ホームアウリンコ」の建設に伴い、ボランティア室を移動することになりました。

新しい場所はセンター2階のホーム喫茶などが行われているパントリーの横になります。今まで日曜日はケアプラザの入り口のかぎが閉まっていてボランティア室が使えないなどの不便がありました。今回の予定場所であるセンター2階でしたらその心配はありません。窓が広いので明るく、そして温かい空間になるよう工夫していきたいと思っております。

新しい施設ができるまでの間、ご不便をおかけいたしますがなにとぞご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

発行 社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム 統括事務局 企画調整 ボランティア担当 寺澤育代・佐々木ねいろ

連絡先 〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 Tel: 042-527-0035 Fax: 042-527-2646
E-mail: shisei-volunteer@shisei.or.jp HP: <http://www.shisei.or.jp>